

## 令和6年度第1回総合教育会議 会議録

1 日 時 令和6年9月3日（火）午後3時00分～午後4時32分

2 場 所 三島市役所中央町別館4階 第1会議室

3 出席者

（構成員）

豊岡市長、小塚教育長、竹林委員、草間委員、飯島委員

（説明者他）

鈴木教育推進部長、鈴木教育推進部主任、畠教育総務課長、中村学校教育課長、  
沼上生涯学習課長、渡邊図書館長、及川文化財課長、飯田企画戦略部長

（書記）

諏訪部教育総務課長補佐、風間教育総務課主事

4 傍聴人の数 2人

5 協議または報告に係る事項

（1）教育DXの推進

（2）子どもたちの教育環境を考える

～不登校児童生徒への対応と教育環境の整備について～

6 発言者及びその要旨

（1）開会

（2）市長あいさつ

（3）議題1

**教育DXの推進**

（豊岡市長）

本日はお忙しい中、出席いただき感謝申し上げます。

この総合教育会議により、市長と教育委員会とが十分な意思疎通を図り、地域の教

育の課題やあるべき姿を共有して、今後とも一層民意を反映した教育行政を推進していきたいと思う。

文部科学省が推進する GIGA スクール構想により、児童生徒の 1 人 1 台端末と高速大容量の通信ネットワークの整備が進み、今やこれらの環境は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に必要不可欠なものとなっている。同時に、学校における ICT は、教師の長時間勤務を解消し、学校の働き方改革を実現する上でも極めて大きな役割を果たし得るものである。

また、不登校や保健室登校の児童生徒への授業の配信、特別な支援を要する児童生徒の特性に応じた機能の活用など、誰一人取り残さない学びの保障の観点からも、GIGA スクールの環境は非常に重要なものとなっている。

そこで、今回のテーマを、一つ目は「教育 DX の推進」とし、三島市の学校教育 ICT 環境整備について、また二つ目には「子どもたちの教育環境を考える」として、不登校児童生徒等への対応と教育環境の整備について、それらの現状と課題を踏まえた今後の方向性等を話し合っていきたいと思う。

委員の皆様方には、忌憚ないご意見を賜りますようお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

(畠教育総務課長)

畠教育総務課長から、以下の項目に関する説明があった。

【三島市が校務DXに取り組む理由】

【文部科学省の掲げる NEXTGIGA と校務 DX の KPI】

【三島市の校務 DX の施策】

【第 2 期 GIGA スクール整備】

(飯島委員)

あらゆる業界で DX 化が進んでいると思うが、今までの IT 化と違うところが新たに価値を生み出せるところである。DX 化を進めることで子供たちの教育がより充実することと思う。今後ダッシュボードを導入することで多くの情報を活用して様々なことができるようになるが、一方で仕事をスムーズに進めるためにどのような情報が必要か把握することが重要である。必要とする情報が必要とする時に引き出せないとならない。DX 化はあくまでも手段であるが「DX 化が目的」ぐらいの強さで進めてもらい、校務支援システムやリーバー等のシステムを連携させて行って欲しい。

(畠教育総務課長)

ダッシュボードを構築していくに当たっては、教職員と話し、どういった情報を見ていくと教育現場に活かせるのか見定めていく。API 連携の技術を活用し、学校内に散在する様々なデータを活用できるようにすることを次期校務支援システムの目標にしながら進めていきたい。

(豊岡市長)

小学生が入学する際の調査票について、紙ベースで行ってきたものをデジタル化し大きな成果を挙げた。先生方も非常に楽になった。先生方にも DX について学び続けていただくと有効活用になると思う。まもなく学力状況調査の結果が発表されると思うが、三島の成績はとても素晴らしく、ipad の使用率もとても高く、GIGA スクールではトップランナーとなっている。市の財政状況を見ながら、予算の範囲内でできる限り取り組んでいきたい。

(竹林委員)

全体の流れとして教育 DX が進んでいくのは大変ありがたいことである。情報系の話になると抵抗なく受け入れられる人とそうでない人がいるため、苦手な児童や生徒、教職員が置いていかれないよう進めてもらいたい。情報系の知識がある人にリードしてもらえないと進まないため、常に現場の教職員の声を聴きながら進めてほしい。統合型の教育支援システムを導入することで、校務系の情報と学習系の情報を一体化することはとても有効な情報を提供できて良いと思う。お互いの得意な分野を補いながらこの計画を進めていくことができれば、児童や生徒、教員にとっても明るい未来が見えると思う。

(中村学校教育課長)

年度当初は他市町から異動してくる教職員もいるため業者にサポートをいただきオンラインで研修会を実施している。学校現場ではこれまで教員のノウハウをベテランが若手に教えるのが当たり前であったが、GIGA スクールに関しては若手がベテランに教えている場面が見られ、良い効果が出ていると感じる。

(畠教育総務課長)

令和 7 年度には教育情報セキュリティポリシーを策定し先生方のリテラシーを高める必要性があり、導入時には十分な研修等を行う。

(草間委員)

コロナ禍の中で急にデジタル化が進み、大変だと思う。デジタル化により先生方が場所を問わず感じたことをすぐに調べることができるようになった。一方でプライバシー等の個人情報の流出を危惧する。デジタル化することで、自分のスケールが広がり自分と世界がつながっていき良い未来がひらけるように感じた。

(畠教育総務課長)

情報管理の問題について、仮にパソコン本体を置き忘れたとしても、データは全て暗号化することとしており、さらに基本的には端末本体にデータが残らないようにクラウドに保存する。個人情報の流出等については、必要な安全策を講じていきたいと考える。

(豊岡市長)

今の社会はデジタル化がものすごいスピードで進化している。子どもたちは、そういった社会で働いて生きていかなければならない。三島で教育を受けて社会に出て、役立ち、ICTの分野で働く人も大勢出てくると思う。三島で教育を受けたことを感謝してもらえないのではないかと思う。

(4) 議題2

### 子どもたちの教育環境を考える

#### ～不登校児童生徒への対応と教育環境の整備について～

(中村学校教育課長)

以下の事項について説明をした。

【不登校の定義】

【不登校の現状】

【不登校に関して三島市における取組】

【ふれあい教室について】

【校内支援室について】

(草間委員)

学校とふれあい教室の連携において、円を描いて輪になることを感じた。不登校になる理由はそれぞれ事情があると思うが、1対1になり密となってじっくり話を聞いてあげることやタブレットを活用して相談に乗ることができ、三島市は恵まれているように感じる。不登校の生徒の中にも学校に行きたいが行けないという状況の子も多いと思う。生徒の心に寄り添うことが大切であるため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して一つの輪になるようにして欲しい。

(飯島委員)

新規不登校者について、県内や全国と比較すると三島市はどのような状況か。

(中村学校教育課長)

全国と比べると昨年度の段階で若干高くなっている。直近の状況としては今年の4月から6月までの間では昨年度比で新規不登校は抑えられている。特に、中学校について

は、昨年度から稼働している校内支援室の効果があつたと感じる。

(飯島委員)

復帰への道のりを色々と用意されていて素晴らしい。普段学校に行けない生徒が私の事業所に職場体験に来てくれて、非常に楽しかったと感想があつた。様々な面からサポートをしてくれている。不登校生徒に対してのタブレット活用も三島市らしく素晴らしい。新規不登校者を増やさないようにするため、不登校の兆しを見逃さないように AI 技術等を活用できるのではないかな。

(竹林委員)

不登校の問題は悩ましい。年度によってバラつきはあるが、増えている状況である。不登校の原因がはっきり分かっているならば収束に向かうが、家庭が原因なのか学校が原因なのかははっきりしないため難しい問題である。中学校の校内支援室は不登校を少しでも減らすのに効果的である。そもそも不登校を生まないことが重要であるが、ふれあい教室や校内支援室に行けない子もいる。やはり一番頼りになるのは担任の先生であると思う。忙しい中ではあるが、自分の受け持った子どもに情熱を持って粘り強く対応してほしいと思う。

(教育長)

先日、常葉大学の学校研修会に出席した際に、学校の教員との関係が良い子どもは支援センターに来ていても活動が進むというお話を聞いた。

(5) 閉会

(豊岡市長)

以上をもって、令和 6 年度第 1 回総合教育会議を閉会する。活発な議論に感謝申し上げます。